

(様式第3号)

令和7年度調査研究中間報告書

調査研究課題	茨城県内におけるリケッチャ保有マダニの浸潤状況の解明																								
担当者	大澤修一、渡邊颯太、小室慶子、大久保朝香、坪山勝平、絹川恵里奈、松崎未希、本谷匠																								
計画期間	令和2年度～7年度 6年間																								
経費	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画額 (千円)</td> <td>155</td> <td>8,438</td> <td>9,276</td> <td>8,958</td> <td>7,906</td> <td>6,141</td> <td>40,874</td> </tr> <tr> <td>実績額 (千円)</td> <td>155</td> <td>8,438</td> <td>9,276</td> <td>8,958</td> <td>7,906</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	計	計画額 (千円)	155	8,438	9,276	8,958	7,906	6,141	40,874	実績額 (千円)	155	8,438	9,276	8,958	7,906		
年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	計																		
計画額 (千円)	155	8,438	9,276	8,958	7,906	6,141	40,874																		
実績額 (千円)	155	8,438	9,276	8,958	7,906																				
調査研究計画	県内10カ所において、マダニを採取し、リアルタイムPCR法によりリケッチャを検出する。採取したマダニの種類及び検出したリケッチャを衛生研究所HPに掲載するなど、リケッチャ感染症に対して注意喚起を行う。																								
進捗状況	令和2年度～令和4年度までは、県内10カ所でマダニ調査を実施していたが、令和5年度はマダニの分布をさらに詳細に調べるために調査対象地点を19カ所に拡大した。令和6年度は、マダニの季節消長を調査するため、県南地域2地点を中心に月に1回程度定期的にマダニ調査を実施した。																								
これまでの成果の概要	これまでの調査において、3属11種類のマダニが県内に生息することがわかった。また、日本紅斑熱の原因となるリケッチャ・ジャポニカをヤマアラシチマダニから検出した。リケッチャ・ジャポニカはヤマアラシチマダニからのみ検出されており、県内の日本紅斑熱の発生にヤマアラシチマダニが関与すると考えられた。また、県外で感染症の発生が報告されているリケッチャ・タムラエがタカサゴキララマダニから高率に検出された。県内のマダニの分布およびリケッチャの保有状況について、論文を投稿した。 【投稿論文】 Kiyasu Y, Osawa S, Tsutsumi N, Terada N, Nagata N. Distribution of ticks and their possession of spotted fever group Rickettsia in Ibaraki prefecture. J Infect Chemother. 2024;30(7):590-596. doi:10.1016/j.jiac.2023.12.013																								

今後の 計画・課題 対応方法	県内において日本紅斑熱発生地域は拡大している。発生地域の拡大には野生動物の移動に伴うマダニの移動が関与していると考えられるが、野生動物とマダニの関係については調査が不十分である。リケッチャ・ジャポニカの県内動態の解明には、野生動物に付着するマダニなども調査する必要がある。
----------------------	--

※ 研究成果等の資料があれば添付すること。

(様式第11号)

中間評価結果報告書

令和7年9月11日

衛生研究所長 殿

茨城県衛生研究所評価委員会

委員長 木村 博一

(押印又は自署)



調査研究課題	茨城県内におけるリケッチャ保有マダニの浸潤状況の解明
--------	----------------------------

評価項目	評価	意見	備考
①必要性	5、5、5、5、 5、5、5 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">平均評価点 5.0</div>	リケッチャ保有マダニによる感染症の未然防止、および早期診断、早期治療の重要性は更に増しており、リケッチャ保有マダニの浸潤状況の解明は対策を検討するために重要である。	
②進捗状況	5、5、5、5、 3、5、5 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">平均評価点 4.7</div>	県内の植生マダニの種類とリケッチャの調査実績を基に、調査地点増加し、分布、季節変化、マダニとリケッチャの関係の知見が蓄積されてきている。	
③計画の妥当性	5、5、5、5、 5、5、5 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">平均評価点 5.0</div>	リケッチャによる日本紅斑熱発生地域の拡大と、野生動物の移動に伴うマダニの移動の関係を調査する内容は適正と考える。	
④目標の達成及び活用可能性	5、5、5、5、 5、5、5 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">平均評価点 5.0</div>	目標は達成できると判断する。 また、県内の発生地域拡大の要因と考えられる野生動物の調査結果の活用が期待される。	
⑤総合評価	5、5、5、5、 5、5、5 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">平均評価点 5.0</div>	マダニの種別に種々の病原リケッチャ保有状況を明らかにしていることを高く評価したい。今後、ダニの生息域、種別（経卵感染の有無を含めた）ならびにリケッチャ感染症の疫学が明らかになることを期待したい。 また、県民向けの成果の活用が期待される。	
⑥継続実施の評価 A：実施相当 B：計画を見直し 実施相当 C：実施不可相当	A : 7名 B : 0名 C : 0名		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">最終評価 A B C</div>	評価の理由や助言等 (評価「B」の場合は見直しを要する事項)	

評価点 1 : 不良 2 : やや不良 3 : 普通 4 : やや良好 5 : 良好